

2010年2月16日

1 製品の概要

Novell® Teaming 2.1 では、Teaming 2.0 と比べて Teaming ユーザおよび管理者に対するより多くの拡張機能が提供されています。

ユーザ向け

- ◆ **ランディングページエディタの改善点** : 使いやすく新しいランディングページエディタでは、フォルダ、フォルダエントリ、グラフィックなどをドラッグできるコンテナ (単一カラムレイアウト用のリストまたは複数カラムレイアウト用のテーブル) が提供されています。ランディングページの初期バージョンを作成した後で、外観は簡単に変更できます。
- ◆ **Teaming フィード** : 新しい Teaming フィードはコンパクトウィンドウに表示され、ポストが発生順に Teaming サイトに一覧表示されます。ポストは、サイト全体、チーム、トラッキングされた場所、またはマイクロブログという 4 つの種類で表示できます。
- ◆ **YouTube ビデオサポート** : Teaming では、Teaming サイト全体を通じて YouTube* ビデオを任意のエントリ、フォルダ、またはワークスペースで表示できます。
- ◆ **モバイルデバイスからの Teaming サイトアクセス** : ユーザはモバイルデバイスから Teaming サイトにアクセスできます。モバイルデバイスから、ユーザは人々や場所を検索するための基本的な検索を実行できます。ユーザは保存された検索を使用できます (ただし、新規の保存された検索をモバイルデバイスで定義することはできません)。マイチーム、私のお気に入り、新着情報、ブログ、wiki、ディスカッション、カレンダー、およびタスクはすべてモバイルデバイスから表示することができ、ワークフローの状態は変更できます。
- ◆ **ワークスペースおよびフォルダの削除取り消し** : ユーザはワークスペース、フォルダ、およびフォルダエントリの削除を取り消すことができます。メインサイドバーおよびメニューバーでは、選択したワークスペースまたはフォルダ内のすべての削除済み項目が表示されるごみ箱アイコンが利用できるため、ユーザは削除を取り消す項目を選択することができます。ユーザは表示する権限を持つ項目のみを表示して、削除を取り消す権限を持つ項目のみの削除を取り消すことができます。削除済み項目は、ページされるまでデータクォータにカウントされます。ユーザは、データクォータの範囲を超えないようにするためにコンテンツを除外する必要がある場合に、詳細検索を使用して削除済み項目を検索して確認できます。
- ◆ **カレンダーの改善点** : [カレンダー] フォルダでは、イベントが実際にホストされている Teaming のワークスペースにかかわらず、[カレンダー] フォルダの所有者に関連するすべてのイベントが表示されます。

- ◆ **タスクの改善点:** [タスク] フォルダでは、タスクが実際にホストされている Teaming のワークスペースにかかわらず、[タスク] フォルダの所有者に割り当てられているすべてのタスクが表示されます。

管理者向け

- ◆ **ユーザ/エントリデータクォータ:** Teaming 管理者は、単一のフォルダエントリで累積されたそれぞれの Teaming ユーザの添付ファイルおよびバージョンに対して最大サイズ制限を設定できます。「ハイウォーターマーク」(フォルダエントリに対するデータクォータのパーセンテージ)に達すると、ユーザは警告を受け取ります。最終的にフォルダエントリのデータクォータに達すると、ユーザはそのフォルダエントリで添付ファイルおよびバージョンを削除することによって容量を使用可能にするまで、そのフォルダで追加の添付ファイルやバージョンを作成することはできません。管理者は個々のユーザベースでデータクォータを割り当てることができます。または、グループを使用して同じデータクォータを複数のユーザに簡単に割り当てることができます。
- ◆ **ワークスペースとフォルダの管理** パージ 削除済み項目はユーザのデータクォータにカウントされるため、Teaming 管理者はストレージ容量を使用可能にするために Teaming サイトのどの場所でも、削除済み項目をパージすることを選択できます。
- ◆ **ワークスペース/フォルダのエクスポート/インポート:** Teaming 管理者はワークスペース、フォルダ、およびフォルダエントリをエクスポートして、異なる Teaming システムにインポートすることができます。エクスポートプロセスには、ユーザ、グループ、チームメンバー、役割、カスタムフォーム、ランディングページ、ワークフロー、カスタム JSP、およびシンプル URL など、エクスポートされたワークスペース、フォルダ、またはフォルダエントリに関連付けられたすべてのコンテンツが含まれます。インポートプロセスでは、インポートされたデータとターゲットの Teaming サイトにすでに存在するデータとの調整が試行されます。
- ◆ **ソフトウェア拡張機能の管理:** Teaming 管理者は、Teaming サイトにログイン中に Teaming ソフトウェアへの拡張機能を展開できます。Teaming プロパティファイル (ssf-ext.properties) を手動で編集する必要はありません。既存の Teaming ソフトウェアの拡張機能は、Teaming サイトの新しい [拡張機能の管理] ページから表示したり、削除したりすることもできます。

2 Teaming のシステム要件

システム要件は、[Novell Teaming 2.1 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/teaming21\)](http://www.novell.com/documentation/teaming21) の『Teaming 2.1 Installation Guide』で利用できます。

3 Linux インストール手順

- 1 Novell Teaming をインストールする予定の Linux* サーバが、システム要件を満たしていることを確認します。
- 2 Web サーバが現在 Teaming サーバで実行中の場合、それを停止し、可能であれば無効にします。
- 3 Teaming ディレクトリおよびファイルを所有させ、Teaming ソフトウェアを実行させる root 以外の Linux ユーザおよびグループ作成し、選択します。
- 4 ターミナルウィンドウで、su およびルートパスワードを入力して、ルート権限を取得します。

- 5 Teaming ソフトウェアをダウンロードして解凍したディレクトリで、以下のコマンドを入力して Teaming インストールプログラムを開始します。

```
./installer-teaming.linux
```

完全なインストール手順は、[Novell Teaming 2.1 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/teaming21\)](http://www.novell.com/documentation/teaming21) の『Teaming 2.1 Installation Guide』で利用できます。

4 Windows インストール手順

- 1 Novell Teaming をインストールする Windows* サーバがシステム要件を満たしていることを確認します。
- 2 管理者権限で Windows サーバにログインします。
- 3 Web サーバが現在 Teaming サーバで実行中の場合、それを停止し、可能であれば無効にします。
- 4 Windows Explorer で、Teaming ソフトウェアをダウンロードし展開するディレクトリをブラウズしてから、installer-teaming.exe ファイルをダブルクリックし、Teaming インストールプログラムを起動します。

完全なインストール手順は、[Novell Teaming 2.1 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/teaming21\)](http://www.novell.com/documentation/teaming21) の『Teaming 2.1 Installation Guide』で利用できます。

5 インストールに関する問題

- ◆ 3 ページのセクション 5.1 「ユーザ名とパスワードの文字制限」
- ◆ 4 ページのセクション 5.2 「LDAP 同期およびログインでのユーザ名の文字制限」
- ◆ 4 ページのセクション 5.3 「ソフトウェアインストールディレクトリ名の文字制限」
- ◆ 4 ページのセクション 5.4 「ファイルリポジトリディレクトリ名の文字制限」
- ◆ 4 ページのセクション 5.5 「デフォルトのデータベース名」
- ◆ 5 ページのセクション 5.6 「アプレットサポートの制限」
- ◆ 5 ページのセクション 5.7 「Mac ユーザ用のその場編集サポート」
- ◆ 6 ページのセクション 5.8 「NFS サポート」
- ◆ 6 ページのセクション 5.9 「Windows Server 2008 でのファイアウォール問題」
- ◆ 6 ページのセクション 5.10 「WebDAV サーバへの SSL 接続の JDK 依存関係」
- ◆ 6 ページのセクション 5.11 「更新された Visual C++ 再配布可能パッケージ (Windows の場合)」
- ◆ 7 ページのセクション 5.12 「Access Manager との互換性」

5.1 ユーザ名とパスワードの文字制限

Novell Teaming のユーザ名とパス名に拡張文字または 2 バイト文字を使用しないでください。この中には、LDAP ディレクトリから Teaming に同期化されたユーザ名やパスワードも含まれます。

この制限は、Teaming が認証用のオープンソース [Spring Security \(http://static.springframework.org/spring-security/site\)](http://static.springframework.org/spring-security/site) を、Novell Authentication Manager などのシングルサインオン製品、Web サービス、および WebDAV によって使用されるさまざまな認証方法 ([基本認証 \(http://en.wikipedia.org/wiki/Basic_access_authentication\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Basic_access_authentication) と [フォームベース認証 \(http://en.wikipedia.org/wiki/Form_based_authentication\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Form_based_authentication)) と組み合わせて使用することが原因となっています。どの組み合わせでも正しく解釈されるのは、ASCII 文字のみです。

5.2 LDAP 同期およびログインでのユーザ名の文字制限

特殊文字 (\ * ? " < > : |) が含まれる LDAP ユーザ名は Novell Teaming ユーザ名として使用できません。LDAP ディレクトリにこれらの文字が入ったユーザ名が含まれている場合、Teaming サイトとは同期しますが関連付けられたユーザはログインできません。

これらの文字を Teaming ユーザ名に使用することはできません。これは、Teaming ユーザ名がユーザのワークスペースタイトルとなり、ワークスペースタイトルはワークスペースに導く階層パスの要素となるからです。これらの文字は Linux や Windows のパス名では正規文字ではありません。

5.3 ソフトウェアインストールディレクトリ名の文字制限

Novell Teaming ファイルのインストールディレクトリ名には拡張文字やダブルバイト文字は使用しないでください。Teaming ソフトウェアのデフォルト場所：

Linux: /opt/novell/teaming

Windows: c:\Program Files\Novell\Teaming

5.4 ファイルリポジトリディレクトリ名の文字制限

Novell Teaming ファイルリポジトリへのパスのディレクトリ名では拡張文字またはダブルバイト文字は使用しないでください。ファイルリポジトリのルートディレクトリのデフォルトの場所は、次のとおりです。

Linux: /var/opt/novell/teaming

Windows: c:\Novell\Teaming

Teaming サイトで表示したり、インデックス処理するために、さまざまなファイルタイプを HTML で表示するために使用される Oracle Outside In ビューアでは、拡張文字やダブルバイト文字が含まれるディレクトリ名は処理されません。

5.5 デフォルトのデータベース名

Novell Teaming インストールプログラムに Teaming データベースを作成させる場合、データベースは sitescape という名前を与えられます。このデータベース名は、インストールプログラムで使用されるデータベース作成スクリプトに、現在ハードコーディングされています。名前は、以前に Teaming ソフトウェアを所有していた会社の名前まで遡ります。

- 9 保存しないで `ssf.properties` ファイルを閉じます。
- 10 Teaming サイトで新しいソフトウェアの場所が有効になるように、Teaming を停止して再起動します。

5.8 NFS サポート

Teaming ファイルリポジトリを Teaming が実行しているリモートサーバに配置するために、NFS* ファイルシステムマウントがサポートされています。ただし、NFS ファイルシステムマウントは、Lucene* インデックスを Lucene Index Server が実行しているリモートサーバに配置する場合にはサポートされていません。

5.9 Windows Server 2008 でのファイアウォール問題

Windows Server* 2008 R2 では、ファイアウォールはデフォルトで有効であり、ポート 80 および 443 はブロックされています。Teaming ではこれらのポートを使用するため、Windows サーバで Teaming は許可されたプログラムである必要があります。

Teaming で使用するために Windows Server 2008 マシンを準備する：

- 1 コントロールパネルで、*Windows Firewall* をダブルクリックします。
- 2 *[Windows ファイアウォールによるプログラムの許可]* をクリックします。
- 3 ファイアウォールを介して Teaming が使用する必要のあるポートを開きます。
 - 3a *[ポートの追加]* をクリックします。
 - 3b *[名前]* フィールドで、安全でない接続に対して Teaming が使用する HTTP ポートの記述的な名前を指定します。
 - 3c *[ポート]* フィールドで、80 を指定します。
 - 3d *[OK]* をクリックします。
 - 3e 安全な HTTP ポート 443 に対して、*ステップ 3a ~ ステップ 3d* を繰り返します。
- 4 2つのポートを定義した後で、*[Windows ファイアウォールの設定]* ダイアログボックスで *[OK]* をクリックして、これらのポートでファイアウォールを介して Teaming が通信することを許可します。

5.10 WebDAV サーバへの SSL 接続の JDK 依存関係

Novell Teaming サイトおよび WebDAV サーバ間で SSL 接続を使用する場合で、WebDAV サーバが認証局によって提供されている証明書ではなく自己署名証明書を持つ場合は、Sun* JDK* を使用する必要があります。自己署名証明書を処理するための既存の Teaming 機能は、IBM* JDK が自己署名証明書を処理する方法と互換性はありません。

5.11 更新された Visual C++ 再配布可能パッケージ (Windows の場合)

Novell Teaming は、Teaming サイトでドキュメントとイメージを表示するためと、ドキュメントのインデックスを付けるために Oracle Outside In 8.3.0 ビューア技術を使用します。このビューア技術は Microsoft* Visual C++ 2005 再配布可能パッケージのサポートパック 1 に基づいています。Teaming をインストールする Windows サーバに、まだ Visual C++

2005 再配布可能パッケージの最新バージョンがインストールされていない場合、Teaming サイトが適切に機能する前に、インストールする必要があります。必要な Visual C++ 2005 再配布可能パッケージのバージョンは、次のとおりです。

- ◆ Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再配布可能パッケージ (x86) (<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=200B2FD9-AE1A-4A14-984D-389C36F85647&displaylang=en>)
- ◆ Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再配布可能パッケージ (x64) (<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=EB4EBE2D-33C0-4A47-9DD4-B9A6D7BD44DA&displaylang=en>)

詳細については、Oracle サポート Web サイト (<http://www.oracle.com/support>) の「*New Dependency for Outside In 8.2.0 and Newer Versions, Windows Products Only*」 (Doc ID 468895.1) を参照してください。サポートドキュメントにアクセスするには、Oracle のサポートサイトへのログインが必要です。

5.12 Access Manager との互換性

Novell Teaming 2.1 を Novell Access Manager と正常に使用するには、Access Manager 3.1 SP1 IR1 が必要です。このバージョンは [Novell Downloads Web サイト \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) で利用できます。

6 Teaming 2.0 から 2.1 への更新問題

- ◆ 7 ページのセクション 6.1 「更新中に保持されないテーマ」

6.1 更新中に保持されないテーマ

Teaming 2.0 から 2.1 に更新する場合、カスタマイズされたテーマは自動的に保持されません。ただし、Teaming ソフトウェアの以前のバージョンが更新プロセス中に `/opt/novell/teaming/teaming-backup` にバックアップされているため、カスタマイズしたファイルを復元できます。

7 Teaming 1.0 から 2.1 への更新問題

- ◆ 8 ページのセクション 7.1 「デフォルトのゾーン名」
- ◆ 8 ページのセクション 7.2 「電子メールアドレスでのログイン」
- ◆ 8 ページのセクション 7.3 「ソフトウェア更新後に発生する可能性のある表示問題」
- ◆ 8 ページのセクション 7.4 「インポートファイルのエントリタイプ修復」
- ◆ 9 ページのセクション 7.5 「Teaming のファイルリポジトリディレクトリ構造の所有権」
- ◆ 9 ページのセクション 7.6 「SharePoint ミラーリングフォルダタイプ」

- 3 テキストエディタで `ssf-ext.properties` ファイルを開き、ファイルの一番下までスクロールします。
- 4 次の行を追加します。

```
ssf.allowFolderDefinitionFixups=true
```
- 5 `ssf-ext.properties` ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。
- 6 Teaming を再起動して、変更を有効にします。
- 7 インポートされたファイルのエントリタイプとフォルダタイプを変更するには、『[Novell Teaming 2.1 Advanced User Guide \(http://www.novell.com/documentation/teaming21\)](http://www.novell.com/documentation/teaming21)』の「Managing Folders」の「Recursively Applying Definition Settings」の手順に従ってください。

7.5 Teaming のファイルリポジトリディレクトリ構造の所有権

Linux 上で、Novell Teaming 1.0 を root で実行していたが、Novell Teaming 2.1 を root 以外のユーザ (推奨) で実行しようとする場合、更新を実行する前に、Teaming 1.0 のファイルリポジトリディレクトリ構造の所有者とグループを変更する必要があります。Teaming を特に専用で実行する新しい Linux ユーザ (たとえば、teamingadmin ユーザと teamingadmin グループ) を作成でき、または既存の Linux ユーザ (たとえば、Apache の wwwrun ユーザと www グループ) を使用できます。

- 1 Teaming 1.0 を停止します。
- 2 Teaming 1.0 データディレクトリに移動します。
デフォルトの場所は、次のとおりです。

```
/licecore/teamingdata
```
- 3 root で、次のコマンドを実行します。

```
chown -R username *  
chgrp -R group_name *
```
- 4 Teaming 1.0 から Teaming 2.1 への実行するには、root で、Teaming 2.1 インストールプログラムを実行します。
- 5 Novell Teaming ページの [ユーザ ID] で、**ステップ 3** で使用したユーザ名およびグループ名を指定します。
Teaming 2.1 インストールプログラムは `/etc/init.d/teaming` スクリプトを更新して、Teaming を指定した Teaming 管理者ユーザとして開始します。
- 6 インストールが完了した後で、`/etc/init.d/teaming` スクリプトを実行して Teaming を Teaming 管理者ユーザとして開始します。

7.6 SharePoint ミラーリングフォルダタイプ

Novell Teaming 1.0 では、Teaming インストールプログラムにより、タイプ SharePoint のミラーリングフォルダが作成できます。内部では、SharePoint* のミラーリングされたフォルダ機能は WebDAV のミラーリングされたフォルダと同じでした。SharePoint のミラーリングされたフォルダでは Windows NT* LAN Manager (NTLM) 認証がサポートされていませんでした。

Teaming 2.1 では、インストールプログラムは、ミラーリングフォルダに SharePoint オプションを提供しなくなりました。既存の SharePoint のミラーリングされたフォルダは Teaming 2.1 では通常通り機能します。

8 Teaming に関する問題

- ◆ 10 ページのセクション 8.1 「LDAP 同期に関する問題」
- ◆ 11 ページのセクション 8.2 「ユーザアカウントの作成」
- ◆ 11 ページのセクション 8.3 「パスワード変更に必要なログアウト/ログイン」
- ◆ 11 ページのセクション 8.4 「ワークスペースのコピー制限」
- ◆ 11 ページのセクション 8.5 「エクスポート/インポートの制限」
- ◆ 12 ページのセクション 8.6 「MySQL でのファイル削除の問題」
- ◆ 12 ページのセクション 8.7 「パスワード保護されたファイル」
- ◆ 12 ページのセクション 8.8 「ミラーリングフォルダ構造の制限」
- ◆ 12 ページのセクション 8.9 「ミラーリングフォルダバージョン管理の制限」
- ◆ 12 ページのセクション 8.10 「ライセンスレポートに関する問題」
- ◆ 12 ページのセクション 8.11 「カスタムエントリとビューの日付属性」
- ◆ 13 ページのセクション 8.12 「GroupWise メッセージからのドラッグアンドドロップ」
- ◆ 13 ページのセクション 8.13 「GroupWise 統合に関する問題」
- ◆ 14 ページのセクション 8.14 「電子メール送信時の Firefox の制限」
- ◆ 14 ページのセクション 8.15 「WebDAV 機能に関する Windows 更新プログラム」
- ◆ 14 ページのセクション 8.16 「Microsoft Windows Vista および Microsoft Office での WebDAV/ その場編集の問題」
- ◆ 15 ページのセクション 8.17 「Windows 7 での WebDAV/ その場編集の問題」
- ◆ 15 ページのセクション 8.18 「Windows Vista および Windows 7 での WebDAV URL の問題」
- ◆ 16 ページのセクション 8.19 「WebDAV を使用した添付ファイルアクセス」
- ◆ 16 ページのセクション 8.20 「OpenOffice.org でのデータクォータ問題」
- ◆ 16 ページのセクション 8.21 「SLES 10 SP3 での HTML 変換エラー」
- ◆ 17 ページのセクション 8.22 「チュートリアル URL のカスタマイズ」

8.1 LDAP 同期に関する問題

LDAP ディレクトリからユーザをインポートして Novell Teaming ユーザを作成した場合で、LDAP ディレクトリの全ユーザが Teaming に表示されない場合には、次の可能性が考えられます。以下のいずれかの問題を経験する可能性があります。

- ◆ LDAP ディレクトリが整合性のあるユーザ属性 (専用の uid または専用の cn) を使用していない可能性があります。LDAP 同期プロセスを繰り返して、他のユーザ属性を使用します。残りのユーザが Teaming に表示されます。
- ◆ cn を選択した場合で、複数のコンテキストでユーザが検索されるように設定した場合、同じユーザ名を持つユーザが複数存在する場合は、重複したユーザ名の最初のインスタンスのみが Teaming に同期されます。

8.2 ユーザアカウントの作成

デフォルトでは、[パーソナルワークスペース] ページの [ユーザの追加] をクリックすることによって、すべての Teaming ユーザが他のユーザの新しい Teaming アカウントを作成できます。Teaming 管理者のためにアカウント作成を保留する場合は、[Novell Teaming 2.1 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/teaming21\)](http://www.novell.com/documentation/teaming21) の『Teaming 2.1 Installation Guide』の「Preventing Users from Creating User Accounts」の手順に従ってください。

8.3 パスワード変更に必要なログアウト / ログイン

パスワードを変更する場合、WebDAV アクセスが適切に機能するためには、ログアウトとログインをする必要があります。

8.4 ワークスペースのコピー制限

ワークスペースをコピーする際に、ワークスペースのカスタムフォームとワークフロー定義は、ワークスペースのコピーに転送されません。ワークスペースツリーの上位階層に定義を移動することによって、この制限に対処できます。

- 1 定義がある元のワークスペースのフォルダに移動します。
- 2 [ワークスペース] ツールバーで、[管理] > [フォームと表示デザイン] の順にクリックします。
- 3 [フォームと表示デザイン] ツリーを展開してから、移動する定義をクリックします。
- 4 [定義のプロパティ] ダイアログボックスで、[この定義を移動] をクリックし、Teaming サイトにワークスペースとフォルダツリーを表示してから、必要に応じてそのツリーを展開し、定義の適切な移動先を表示します。

オリジナルのワークスペースのコピーで定義を利用できるようにするには、オリジナルワークスペースとワークスペースのコピー両方の上のツリーの場所に定義を移動します。

Teaming サイトで全体的に定義を利用できるようにするには、ワークスペースとフォルダツリーのルートに定義を移動します。

- 5 定義を移動するには、[OK] をクリックします。
- 6 [閉じる] を 2 回クリックして、Teaming のメインページに戻ります。
- 7 定義がワークスペースのコピーで使用可能になったことを確認してください。
- 8 コピーされたワークスペースで使用可能にする必要のある定義ごとにこの手順を繰り返します。

8.5 エクスポート / インポートの制限

外部ワークスペース、フォルダ、またはエントリへのリンクが含まれるワークスペースまたはフォルダをエクスポートする際、外部リンクによってポイントされるターゲットデータはワークスペースまたはフォルダと一緒にエクスポートされません。外部ターゲットへの参照はエクスポートされますが、インポート場所の階層ではエクスポートされたワークスペースまたはフォルダの一部であるデータが調整されない可能性があるため、外部データはエクスポートされません。

8.6 MySQL でのファイル削除の問題

MySQL を使用している場合、ファイルをアップロードしてそのファイルを削除する場合に次のエラーが表示される可能性があります。

```
class org.hibernate.exception.GenericJDBCException
Cannot release connection
```

これは [MySQL の欠陥 \(http://bugs.mysql.com/bug.php?id=45357\)](http://bugs.mysql.com/bug.php?id=45357) に関連しています。問題を解決するには、MySQL をバージョン [5.1.40 \(http://dev.mysql.com/downloads/mysql\)](http://dev.mysql.com/downloads/mysql) に更新します。

8.7 パスワード保護されたファイル

作成元のアプリケーションでパスワード保護されているファイルは Novell Teaming サイトでは表示できません。この動作は仕様によるものです。

8.8 ミラーリングフォルダ構造の制限

Novell Teaming Move は使用できません。このフォルダ機能は、1 つのミラーリングフォルダを別のミラーリングフォルダ内部に移動させます。

8.9 ミラーリングフォルダバージョン管理の制限

ミラーリングフォルダ内のファイルを編集してからバージョン履歴を確認する場合、最新バージョンのファイルのみを表示して、最新バージョンのファイルのみがミラーリング場所からの編集に使用できます。この動作は仕様によるものです。ミラーリングフォルダでのマニュアルのバージョン管理は現在使用できません。

8.10 ライセンスレポートに関する問題

現在の Novell Teaming ライセンスの使用は [管理] > [サイト管理] > [レポート] > [ライセンスレポート] をクリックすることによって表示できます。ライセンスレポートは、現在 2 つの内部、ローカルユーザ (_emailPostingAgent および _jobProcessingAgent) を LDAP ユーザと見なしています。これらの内部ユーザは、Teaming ライセンス使用には見なされません。レポートには、ローカルユーザと LDAP ユーザも含まれます。

8.11 カスタムエントリとビューの日付属性

カスタムエントリまたはビューで日付属性を使用する場合、異なるタイムゾーンのユーザには自分が見ているものと比べて異なる日付が表示される可能性があります。

Novell Teaming では、Teaming ユーザのタイムゾーンで選択された日付は真夜中の時間として、GMT 時間で保存されます。したがって、たとえば山岳部タイムゾーンの 2010 年 1 月 13 日は GMT-7:00 (20100113T0700) として保存されます。同じタイムゾーンの人達にとっては問題ありません。ただし、異なるタイムゾーンの人達にとっては、山岳部タイムゾーンの真夜中は異なる日付である場合があります。この矛盾は今後のリリースで解決されます。

8.12 GroupWise メッセージからのドラッグアンドドロップ

GroupWise® クライアントでは、GroupWise メッセージに添付されているファイルをドラッグして、[フォルダエントリ] ツールバーの [フォルダへファイルを追加] をクリックすると開く Novell Teaming のドラッグアンドドロップウィンドウに正常にドロップすることはできません。最初に添付ファイルを保存してから、保存したファイルをドラッグアンドドロップウィンドウにドラッグアンドドロップします。

8.13 GroupWise 統合に関する問題

GroupWise Windows クライアントから Novell Teaming サイトにアクセスするには、GroupWise ユーザのワークステーションの時間設定が Teaming サーバの時間設定と 5 分以内で一致する必要があります。5 分以上の不一致がある場合、GroupWise クライアントの Teaming サイトへの接続試行がタイムアウトします。可能であれば、サーバまたはワークステーションの時間を、正しい一致した時間にリセットします。

時間差がシステム構成に必要な一部である場合、[WS-Security \(http://en.wikipedia.org/wiki/Web_Services_Security\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Web_Services_Security) を通して Teaming サイトに認証を与える GroupWise などの Web サービスのタイムアウト設定を変更できます。

- 1 次のファイルのバックアップコピーを作成します。

```
teaming_directory/webapps/ssf/WEB-INF/server-config.wsdd
```

- 2 server-config.wsdd ファイルをテキストエディタで開きます。
- 3 次のセクションを検索します。

```
<handler type="java:org.apache.ws.axis.security.WSDoAllReceiver">
<parameter name="passwordCallbackClass"
value="org.kablink.teaming.remoting.ws.security.PWCallback"/>
<parameter name="action" value="UsernameToken Timestamp"/>
</handler>
```

- 4 timeToLive パラメータに大きなタイムアウト値 (たとえば、24 時間を示す 86400) を挿入します。

```
<handler type="java:org.apache.ws.axis.security.WSDoAllReceiver">
<parameter name="passwordCallbackClass"
value="org.kablink.teaming.remoting.ws.security.PWCallback"/>
<parameter name="action" value="UsernameToken Timestamp"/>
<parameter name="timeToLive" value="86400"/>
</handler>
```

- 5 server-config.wsdd ファイルでセクションの秒インスタンスに対して、**ステップ 3** と **ステップ 4** を繰り返します。
- 6 server-config.wsdd ファイルを保存してから、サーバを再起動します。

この設定の変更は、GroupWise のみでなく WS-Security を使用してサーバに認証を与えるすべてのクライアントアプリケーションに影響を与えます。

8.14 電子メール送信時の Firefox の制限

Novell Teaming サイトから電子メールメッセージを送信する場合に、[電子メールアドレスを追加] フィールドで入力ミスまたは無効な受信者がある場合、エラーと [前のページに戻る] ボタンが表示されます。Firefox では、[電子メールを送信] ページに戻りますが、メッセージ内容は失われます。Internet Explorer では、メッセージ内容が保持されます。

Firefox を使用して電子メールを Teaming サイトから送信する場合、可能な限り Teaming ユーザを受信者として選択します。または、[電子メールアドレスを追加] フィールドで誤字を避けるために受信者の電子メールアドレスをコピーします。

8.15 WebDAV 機能に関する Windows 更新プログラム

Windows のブラウザで Novell Teaming のその場編集機能を使用するには、次の Windows WebDAV アップデートをインストールする必要があります。

Web フォルダのソフトウェア更新プログラム (KB907306) (<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=17C36612-632E-4C04-9382-987622ED1D64&displaylang=en>)。

この Windows 更新プログラムは、OpenOffice.org と Microsoft Office が Teaming その場編集機能と正しく相互動作できるようにします。

8.16 Microsoft Windows Vista および Microsoft Office での WebDAV/ その場編集の問題

Microsoft Windows Vista* には、すべての WebDAV 相互動作に影響を与える WebDAV アクセスに関する問題があります。また、アプレットに関する Vista 特有の問題は、Novell Teaming その場編集機能が正しく動作するのを妨げます。必ず、最新バージョンの Vista を実行してください。14 ページのセクション 8.15 「WebDAV 機能に関する Windows 更新プログラム」に記載されている Windows WebDAV 更新プログラムがインストールされていることを確認してください。

Internet Explorer を使用している Windows Vista ユーザはその場編集を使用しようとするとき Java 警告が表示される場合があります。(Firefox ユーザには、このエラーは表示されません)。

Teaming のその場編集機能をサポートするように Internet Explorer を設定する：

- 1 Internet Explorer で [ツール] > [インターネットオプション] の順にクリックします。
- 2 [セキュリティ] をクリックし、[信頼済みサイト] を選択してから、[サイト] をクリックします。
- 3 [この Web サイトをゾーン追加する] フィールドで、Teaming サーバの URL を指定してから、[追加] をクリックします。
- 4 [このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https) を必要とする] を、Teaming サーバに応じて選択または選択解除します。
- 5 [閉じる] をクリックしてから、[OK] をクリックしてセキュリティ設定を保存します。

Windows Vista が Teaming その場編集機能を Microsoft Office でサポートするように設定するには、各 Microsoft Office アプリケーションの Windows レジストリに新しいキーを追加する必要があります。

- 1 Windows Explorer で、Program Files/Microsoft Office/Office12 にナビゲートします。
- 2 順番に各 Microsoft Office .exe を下にスクロールします。
excel.exe
powerpnt.exe
winword.exe
...
- 3 各実行可能ファイルを右クリックしてから、[プロパティ] をクリックします。
- 4 [互換性] をクリックします。
- 5 [互換モードでこのプログラムを実行する] を選択して、ドロップダウンリストから [Windows XP (Service Pack 2)] を選択します。
- 6 コンピュータを再起動します。

Microsoft Office ファイルを使った Teaming その場編集機能を使用できるようになりました。

注：これらの手順で Teaming のその場編集機能は有効になりますが、Teaming で WebDAV 経由で添付できない Vista の問題は修復されません。

アプレットの詳細については、次の Sun の情報を参照してください。

- Bug 6440902 (http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6440902)
- Bug 6432317 (http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6432317)

8.17 Windows 7 での WebDAV/ その場編集の問題

Windows 7 ワークステーションで Office 2007 を使用して Word ドキュメントを編集するために Novell Teaming のその場編集機能を使用する場合、Word では編集済みのファイルが Teaming サイトに保存されずに、ユーザに対して保存場所を指定するよう要求します。ファイルは Windows 7 ワークステーションの Office 2003 を使用して Teaming サイトに保存できます。Windows XP ワークステーションの Office 2007 を使用して Teaming サイトに保存することもできます。

詳細については、[Windows 7 での WebDAV の問題](http://www.techiechips.com/web-folders-web-disk-webdav-problems-on-windows-7) (<http://www.techiechips.com/web-folders-web-disk-webdav-problems-on-windows-7>) を参照してください。

8.18 Windows Vista および Windows 7 での WebDAV URL の問題

Novell Teaming フォルダと関連付けられた WebDAV URL をコピーして、そのフォルダを使用して Windows ネットワークドライブを場所にマップしようとする場合、Windows Vista および Windows 7 ではドライブをマップできない可能性があります。[14 ページのセクション 8.15 「WebDAV 機能に関する Windows 更新プログラム」](#) で説明されている Windows WebDAV アップデートをインストールする際、一部の Teaming WebDAV URL は Windows Vista および Windows 7 で正常に機能します。

WebDAV URL は Windows XP で確実に機能します。

8.19 WebDAV を使用した添付ファイルアクセス

WebDAV 機能を使用して添付ファイルへのアクセスを使用する場合、WebDAV サーバへの認証が失敗する可能性があります。問題を解決するには、ブラウザキャッシュをクリアして、その他のタイプの保存データを可能であれば削除する必要があります。

Internet Explorer 8 の場合：

- 1 キャッシュをクリアする：
 - 1a [ツール] > [インターネットオプション] の順にクリックします。
 - 1b [全般] タブの [ブラウザ履歴] セクションで、[削除] をクリックします。
 - 1c 削除するデータタイプのリストで、[インターネット一時ファイル] のみを選択して、[削除] をクリックします。
 - 1d ブラウザを再起動して、Teaming サイトにアクセスして、添付ファイルに再びアクセスします。
- 2 キャッシュのクリアによって認証問題が解決されない場合は、ブラウザ履歴や Cookie などの追加の保存データを削除します。
 - 2a [ツール] > [インターネットオプション] の順にクリックします。
 - 2b [全般] タブの [ブラウザ履歴] セクションで、[削除] をクリックします。
 - 2c その他のデータタイプを選択して、[削除] をクリックします。
 - 2d ブラウザを再起動して、Teaming サイトにアクセスして、添付ファイルに再びアクセスします。

WebDAV 機能を使用した添付ファイルへのアクセスは Firefox では利用できません。Firefox には、WebDAV URL を開くメカニズムがありません。

8.20 OpenOffice.org でのデータクォータ問題

OpenOffice.org では、編集済みドキュメントを終了する際に 1 つの新しいバージョンが作成されるのではなく、[保存] をクリックするたびに新しいドキュメントバージョンが作成されます。この動作によってデータクォータの超過に非常に早く到達してしまう場合は、[保存] をクリックするたびに OpenOffice.org によって作成される関係のないドキュメントバージョンを手動で削除します。

8.21 SLES 10 SP3 での HTML 変換エラー

ファイルを表示しようとする際に HTML 変換エラーが表示される場合、Teaming サーバが正しく設定されない可能性があります。以下の内容を確認してください。

- 16 ページの「フォントパスの修正」
- 17 ページの「見つからないライブラリのインストール」

8.21.1 フォントパスの修正

インストールプログラムによって、TrueType* のフォントパスを指定するよう求めるメッセージが表示されます。通常の場合は以下のとおりです。

```
/usr/X11R6/lib/X11/fonts/truetype  
/usr/share/fonts/truetype
```

Teaming で TrueType フォントが検索できない場合、HTML ファイルを正しく表示できません。問題を解決するには、以下の操作を実行できます。

- ◆ Teaming インストールプログラムを再実行して、[再設定] インストールオプションを使用して、正しいパスを指定します。
- ◆ 次のファイルで DGFONTPATH 環境変数の設定を変更します。

```
/opt/novell/teaming/apache-tomcat-version/bin/catalina.sh
```

8.21.2 見つからないライブラリのインストール

- 1 以下のディレクトリに変更します。

```
/opt/novell/teaming/stellent-converter/linux/x86
```

- 2 exporter プログラムを実行します。

見つからない入力ファイルおよび出力ファイルに関するエラーが予測されます。

- 3 見つからないライブラリに関するエラーを探します。

- 4 ライブラリエラーがある場合は、見つからないライブラリをインストールします。

8.22 チュートリアル URL のカスタマイズ

各ユーザの Novell Teaming メインホームページに表示される 5 つのビデオチュートリアルは、tutorial_support_js.jsp ファイルに定義されます。標準のビデオチュートリアルは、英語でのみ利用可能です。

このファイルの URL を変更することによって、Teaming ユーザに別のコンテンツを利用させることができます。

- 1 Web サーバで、カスタマイズしたチュートリアルビデオのそれぞれの URL がわかるように、表示するチュートリアル素材を整理します。
- 2 Teaming サーバで、tutorial_support_js.jsp ファイルがあるディレクトリに移動します。
このファイルのデフォルトの場所は、プラットフォームによって次のように異なります。

```
Linux: /opt/novell/teaming/apache-tomcat-version/webapps/  
       ssf/WEB-INF/jsp/common/tutorial_support_js.jsp
```

```
Windows: c:\Program Files\Novell\Teaming\apache-tomcat-version\webapps\  
         ssf\WEB-INF\jsp\common\tutorial_support_js.jsp
```

- 3 tutorial_support_js.jsp ファイルのバックアップコピーを作成します。

- 4 tutorial_support_js.jsp ファイルをテキストエディタで開きます。

- 5 次の行を見つけます。

```
function startTutorial( tutorialName )
```

- 6 url = 行で、カスタムコンテンツがあるベース URL を指定します。

- 7 url += 行のそれぞれで、カスタムビデオチュートリアルをそれぞれ一意に識別する URL の一部を入力します。

- 8 tutorial_support_js.jsp ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。

- 9 カスタマイズした tutorial_support_js.jsp ファイルのバックアップコピーを作成します。

10.1 簡易 URL に、拡張文字は使用できません。

ワークスペースのデフォルトの設定ページで、URL の定義フィールドは拡張文字を受け入れません。簡易 URL には、英数字のみを使用します。

10.2 添付ファイル名の拡張文字と 2 バイト文字

Outlook* ユーザがポストを Novell Teaming サイトに送信する際、ファイル名に拡張文字またはダブルバイト文字が含まれている添付ファイルがメッセージに含まれている場合、Exchange サーバが適切に設定されない限りその添付ファイルは Teaming サイトには届きません。Exchange サーバがファイル名を正しく渡すように設定するには、「[OWA からの送信時に外国文字が疑問符\(?\) で表示される \(http://www.windowsnetworking.com/kbase/WindowsTips/Windows2000/AdminTips/Exchange/ForeigncharactersappearasquestionmarkswhensentfromOWA.html\)](http://www.windowsnetworking.com/kbase/WindowsTips/Windows2000/AdminTips/Exchange/ForeigncharactersappearasquestionmarkswhensentfromOWA.html)」の手順に従います。

10.3 動作状況ログの中国語文字

アクティビティレポートの report.csv ファイルを Microsoft Excel* で開く際、report.csv ファイルがデフォルトで正しく作成されていたとしても、中国語の文字は正しく表示されません。これは Excel では ISO ラテン語の文字セットをしようしてファイルが常に読み取られるためです。

1 つの回避策は、Excel の代わりに OpenOffice.org Calc スプレッドシートプログラムを使用することです。この場合、中国語の文字は正しく表示されます。

Excel での回避策：

- 1 [データ] > [外部データの取り込み] > [データの取り込み] を使用して、report.csv ファイルを Excel にインポートします。
- 2 report.csv ファイルを選択してから、[開く] をクリックします。
- 3 [区切り記号] を選択して [UTF-8] を選択してから [次へ] をクリックします。
- 4 区切り記号として [カンマ] を選択し、[次へ] をクリックしてから、[終了] をクリックします。

Excel で中国語文字が正しく表示されるようになりました。

10.4 HTML エディタインタフェースの中国語テキスト

Novell Teaming に付属する HTML エディタはオープンソースの [TinyMCE JavaScript WYSIWYG Editor \(http://tinymce.moxiecode.com\)](http://tinymce.moxiecode.com) です。そのインタフェースは簡体字に翻訳されていますが、繁体字には翻訳されていません。したがって、Teaming のロケールを繁体字に設定した場合、TinyMCE エディタは引き続き簡体字でインタフェースを表示します。ただし、TinyMCE はテキストフィールドに入力された繁体字を受け入れ適切に表示します。

10.5 ファイル名の国際文字に関連する Internet Explorer 6 の制限

Internet Explorer 6 で、ファイル名に国際文字が含まれているファイルを [ファイル] フォルダにアップロードする場合、そのファイルを編集して新しいバージョンを作成する場合、そのファイルのオリジナルバージョンへのリンクは機能しません。それは、Internet Explorer 6 でファイル名がダブルエンコーディングされるためです。この問題を解決するには、Internet Explorer 7 に更新してください。

11 Teaming のマニュアル

次の各ソースには、Novell Teaming 2.1 に関する情報が記述されています。

- ◆ オンライン製品マニュアル: [Novell Teaming 2.1 マニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/teaming21\)](http://www.novell.com/documentation/teaming21)
- ◆ Novell Teaming に付属する製品マニュアル:
 - ◆ **ビデオチュートリアル**: ホームページ上にある 5 つのビデオチュートリアルアイコンのいずれかをクリックすると、一般的な Teaming タスクの説明とデモが表示されます。(ビデオチュートリアルは英語でのみ利用可能)。
 - ◆ **ヘルプシステム**: Teaming ホームページの右上角にある [ヘルプ] アイコン (疑問符) をクリックしてから、文脈依存型ヘルプの黄色い [ヘルプ] スポットをクリックします。
 - ◆ **ガイド**: [ヘルプ] アイコンをクリックしてから、[マニュアルの表示] をクリックします。

Novell Teaming 製品マニュアルに加えて、次のリソースでは Teaming 2.1 に関する追加の情報が提供されます。

- ◆ [Novell Teaming 製品サイト \(http://www.novell.com/products/teaming\)](http://www.novell.com/products/teaming)
- ◆ [Novell Teaming ライブラリ \(http://www.novell.com/communities/cool solutions/teaminglibrary\)](http://www.novell.com/communities/cool solutions/teaminglibrary)
- ◆ [Novell Teaming Cool Solutions \(http://www.novell.com/communities/cool solutions/ntc\)](http://www.novell.com/communities/cool solutions/ntc)
- ◆ [Novell Teaming サポートフォーラム \(http://forums.novell.com/novell-product-support-forums/teaming-conferencing\)](http://forums.novell.com/novell-product-support-forums/teaming-conferencing)

12 マニュアルの表記規則

このドキュメントでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

13 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. お

よびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出規制および他国の商法の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright (c) 2010 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を、書面による同意なく、複製、写真複写、検索システムへの登録、送信することは、その形態を問わず禁止します。

米国 Novell, Inc. は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/) の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に属します。